2024.2.23

小さな ゆうわ座

話ノ手の声・姿も記録で見えなかったものが見える場

話をきく・みる・はなす

≪曽根つき子さんのキツネの話いろいろ≫

お話の芽が芽を出すとき

いまもここに聞いている民話の入り口

- 民話　耳で聞かれ、口で語られ「語ノ継がれてきた物語」
- みやき民話の会　語ノ手にお話を聞きに行く採訪を如何家続ける
- 民話 声の図書館　語ノ手の声・姿・語ラウ場そのものを記録し、デジタルで残す → 公開

ご本人の了承ノもとで記録しました。

語ノ手・曽根つき子さん（大正12年生）

大和町 井沢 生まれ（おまつり）……平家の落人　用水路を田ノ家に引く　小木曽山ある　山と向き合う暮らし　現実的な暮らし「見えない…」世界

吉岡のふもとへ集団移転になる　民俗文化を記録しよう

◎ 語られないことも含めて記録をしよう

↓

周ノにある、もっと間口広く、部分ノ記録が見えてくる

・ほぐすための昔話・聞きかたり

聞き語りの場　暮らしの風景　狐野さんたち　女性の山に暮らした人の話

「これ、民話みたいぺ」

語り『キツネに仕返しをされた葦屋さん』

沼でつながっている地域の物語

いたずらをしたら仕返しをして笑うキツネ

ほのぼの

再語『キツネのお産を助けたお医者さん』

山奥のお産　怪しい物語ってー～（現実）

お医者さんとキツネのお産～（非現実？）

3匹のキツネ（現実？）

父に、お産を教える

男の仕事・女の仕事　気にしない？

対話　曽根自宅のバソエさんも語ってた

◎ 文化が、お世話に成ってる

昔のお産にまつわる思い出

- 南三陸 志津川から
  - 『キツネ達』『馬くそ』
  - 同じキツネでもちがう、峠に出る黒いキツネ
  - 子分キツネが、死んだキツネのために夢をつくる　悲しい物語もある

『曽根つき子』さんが語っていることの不思議

◎ 物語みたい！？

化かされてる！？

- 集落の仲間として、あたたかい話として語ってる
  → 男性主動物である一方同時にスイリツ様にいる人の家族になっている
- お父さんギツネ、えらい！ → 山の集落の男女仕事区別しない

- 角伯形、風景・峠の風景…いってみて！
- 人から話を聞く心地よさ　何年経っても覚えている

子どもたちに聞かせたいなぁ

- つき子さんの語るキツネの物語

『キツネ火』

『キツネの嫁入り』　行列の人が見える

『キツネ穴』　物の病まではっきり見える

キツネ

なかなかの姿は見なくなれど、光や音で感じられる

手と足をつって定もつって息も吸えと行列が見えなくなる

見えない世界に感じられる

『赤いねんねこ着て赤ちゃん背負ったキツネ』

美しさ、あやしさ、あたたかさ

『赤ん坊の声をまねるキツネ』

『キツネの灯ノに送られた女の人』

友子の助　ありがとな～

語ノ『キツネの親子と話ろう』

つき子さんの実話 忠告

トウモロコシ

再話『お母さんになって子どもを抱いていたキツネ』

抱かれていた子

「お母さん待っとる～」

食べていたシャムパンの根

赤いごはん → テントウムシ

実体験にもとづいた話

タヌキに化かされた？

『「こんな話を聞いてきたよ」と息子が語った物語』

『一つ目小僧のはなし』

一つ目小僧のすもうをとって、勝つと → 「うんうんと食べる」

『お参りをして手をこすると、ごはんの匂いがする』

おいしい！

『「声を聞く」からスタートする』

ウクライナの数学者・兼ロバート・ヤンベル　正真正銘の、言葉の意味の変わる

鬼首の語り『キツネ火』

足元にある光

つき子さんの語りの不思議

現実との境目の広さ・地続きで世間話をしていたら

ふと物語の世界に入っている

日常から物語が浮かび上がってくる

暮らし　物語

ひるねっしるわ　つき子さんの声やなを

厳しい暮らしの中の豊かさ

夢さ

人の話をキャッチする力

受け止める、感じる心があれば、第四の声も見つけられるかも？

つき子さんの姪っ子さんもキツネに話しかけていた

『遠野物語』そのものな

つき子さんの暮らし

井沢の暮らし